

株主のみなさまへ

第18期中間報告書

2015年4月1日～2015年9月30日

株式会社トランスジェニック 証券コード 2342



一人ひとりの健康と豊かな暮らしの実現をめざして



代表取締役社長
福永健司

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、第18期中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、『生物個体からゲノムにいたる生命資源の開発を通して、基盤研究及び医学・医療の場に遺伝情報を提供し、その未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する』ことを目指しております。

この企業理念に基づき、当社グループは基礎研究から非臨床、臨床、更には病理診断まで網羅した幅広いサービスを研究機関・製薬企業等に提供しております。

我々は、この幅広いサービスラインをより付加価値の高い基礎研究・創薬支援プラットフォームとして完成すべく当上半期におきましても、特異性・差別化が高い技術・サービスのグループ導入を目的とする、共同研究開発及び他社との資本業務提携等を積極的に進めて参りました。これらの取組みの効果につきましては、今後、具現化してくるものと考えております。

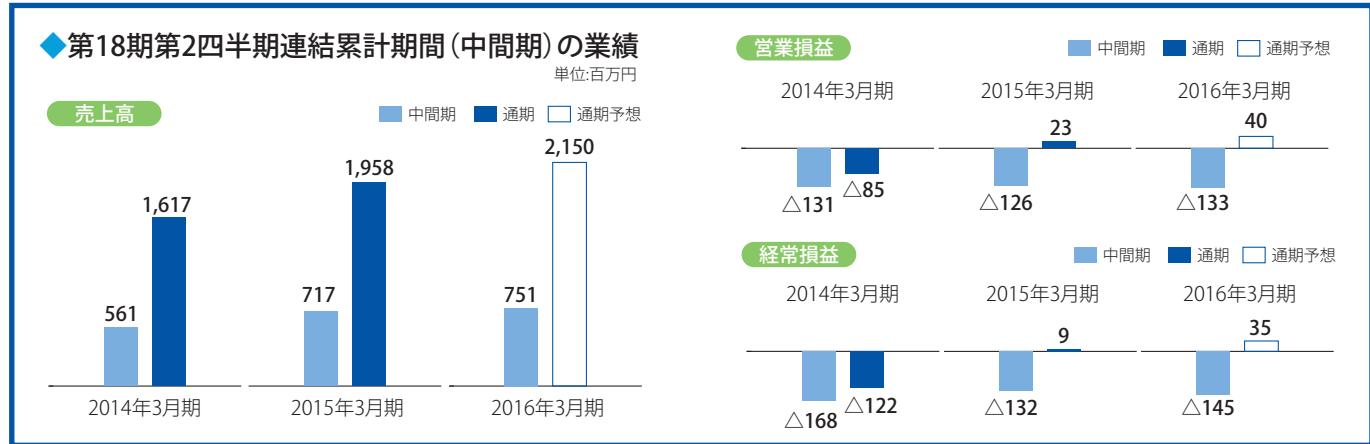
また、グループの既存事業体の状況につきましては、後ほどご説明申し上げますとおり、各事業部で好・不調の波はあるものの、全体としては堅調な増収トレンドを維持しております。当社グループの骨格を構築して、3期目となりますが、グループ化の効果は着実に出てきており、下半期は、この効果がより一層鮮明になると考えております。

そして、当社はこれらの基礎研究・創薬支援プラットフォームの構築に向けて、ここ数年実施してきた施策及びその効果・実績を踏まえ、このスピードを加速し、中長期的な事業基盤の確立・事業規模の飛躍的拡大を図るため、本年12月1日に資金調達を行うことの意味決定をいたしました。

私は、今回の意思決定を成功に導くため、不転退の覚悟で邁進する所存です。

株主の皆様におかれましては、当社の取組みに何卒ご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年12月



Q1 当第2四半期連結累計期間(当中間期)の業績について概要をお聞かせください。

A1 当社グループは、前期に引き続き当第2四半期連結累計期間において、グループ各社の事業基盤整備及び事業効率化を進めるとともに、新たに医化学創薬株式会社と資本業務提携契約を締結する等、積極的に事業領域の拡大も推進しました。この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高751百万円(前年同期717百万円)と前期比4.8%の増収となりました。損益に関しましては、前年開始しました遺伝子解析サービスの不調により営業損失133百万円(前年同期126百万円)、経常損失145百万円(前年同期132百万円)となりましたが、通期黒字体質の確立を受けて繰延税金資産を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は104百万円(前年同期130百万円)となりました。

セグメント別業績状況は、ジェノミクス事業につきましては、売上高148百万円(前年同期179百万円)、営業利益887千円(前年同期10百万円)と期初の繰越残高不足の影響により減収減益となりましたが、積極的なモデルマウス拡充等の取組みにより下期挽回の見込みです。

CRO事業につきましては、積極的な営業活動により売上高268百万円(前年同期200百万円)と大幅増収となり、受注残高も加味すると前年同期比200百万円強の増加となっており、拡大傾向を維持しております。営業損失につきましては、増収に伴い営業損失25百万円(前年同期52百万円)と大幅な改善となりました。今後はグループ内のジェノミクス及び先端医療とのシナジーの最大化を図り、黒字幅の拡大を目指します。

先端医療事業につきましては、売上高137百万円(前年同期147百万円)と減収となり、営業利益に関しては、個人向け遺伝子解析サービスの不調により営業損失25百万円(前

年同期2百万円の利益)となりました。今後、成長分野である個別化医療への創薬支援等に注力するとともに新規解析受託サービスの拡充により業績回復を図ります。

病理診断事業につきましては、受託件数の増加により、売上高201百万円(前年同期195百万円)、営業利益19百万円(前年同期14百万円)と増収増益でした。今後、新規サービスの営業強化によりさらなる売上及び利益の拡大を図ります。

Q2 今回の資金調達の目的をお聞かせください。

A2 前期黒字化を達成し、さらに当第2四半期連結累計期間においてグループ全体としては前期比で増収を達成し、当期予算及び中期経営計画実現にむけてグループ社員一丸となって取り組んでいるところです。

黒字転換により、今後、研究開発資金及び設備投資資金については、グループの期間利益及び銀行借入等で賄う方針であり、更なる事業規模・利益の拡大を進めていく所存です。一方で、我々の事業環境を見ますと依然厳しい状況にあり、更なる発展を遂げるために、より強い事業体の確立が必要です。厳しい環境こそを逆に好機と捉え、技術的強みと特異性をもつバイオベンチャーとの関係及び連携の強化を推進し、双方の企業価値・成長力を高める施策を実現するため、今回の資金調達の意思決定をいたしました。調達予定の約11億円については、その全てをこれらに充当する考えです。

Q3 当中間期における主な施策についてお聞かせください。

A3 当社グループは、当第2四半期連結累計期間において、医化学創薬株式会社(以下、医化学創薬)と戦略的資本業務提携を締結し、当社の創薬支援ツールと医化学創薬の新規抗体医薬品開発システムを融合させ、より付加価値の高い創薬プラットフォーム構築を開始しました。また、ジェノミクス事業においては「臓器ヒト化マウス」の国際特許出願、「アトピー性皮膚炎モデルマウス」「認知症モデルマウス」の導入と、積極的にモデルマウスラインナップの拡充を図りました。当社グループは、下半期以降も継続的に新規サービスの導入及び提供を考えております。

●事業トピックス(2015年4月~2015年9月)
2015年

- 4月 ・ 遺伝子解析事業部門の事業譲渡
・ ゲノム編集技術(CRISPR/Cas9)に関する非独占ライセンス契約締結
- 5月 ・ 抗体医薬シーズに関する共同研究開発契約締結
- 6月 ・ 「臓器ヒト化マウス」に関する国際特許出願
・ 医化学創薬株式会社との戦略的資本業務提携
- 7月 ・ 本社移転
- 9月 ・ 早期癌マーカーとしてのジアセチルスベルミンに関する特許が米国で成立
・ タンパク質高発現系技術に関する特許が日本にて成立

Q4 通期業績の見通しについてお聞かせください。

A4 2015年3月期は、オンリーワンの創薬トータル支援企業へ向けた足固めの年と位置付け、スタートし黒字体質転換を遂げました。2016年3月期は、次なる成長及び挑戦への布石を投じるべく、これまで構築してきた創薬支援プラットフォームを礎にした戦略投資および成長ドライバー創出のための研究開発を実行しております。このような背景のもと、第2四半期累計期間の業績は概ね計画通りに推移し、受注も順調に獲得しております。このトレンドを維持することで、必然的に売上高21.5億円の達成、営業、経常及び最終損益の黒字幅拡大は実現するものと考えております。

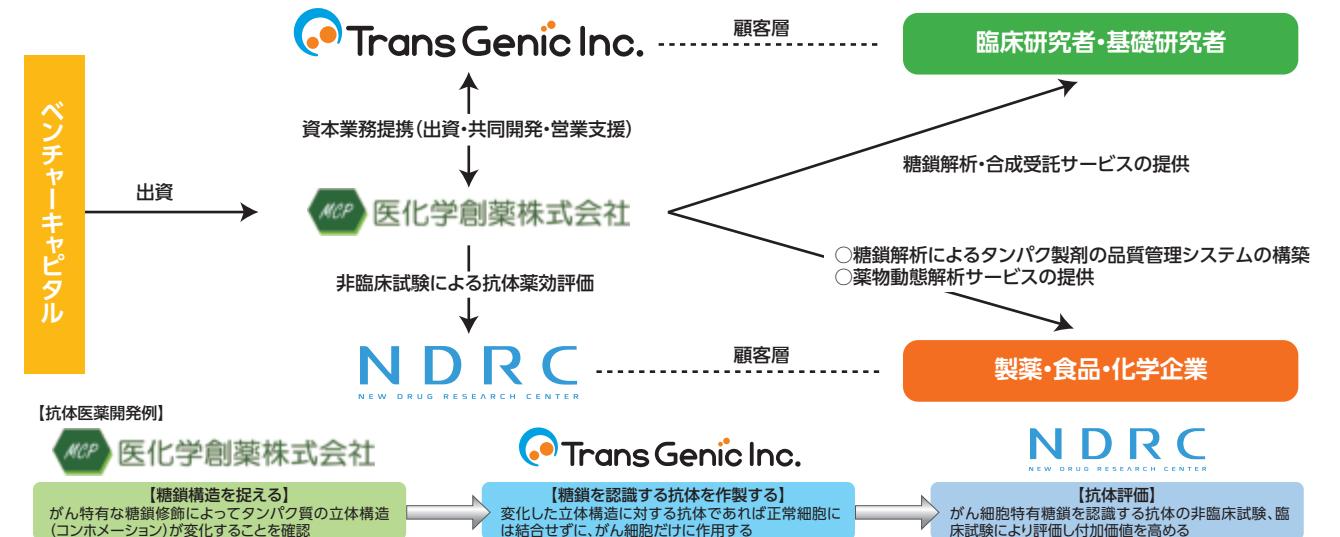
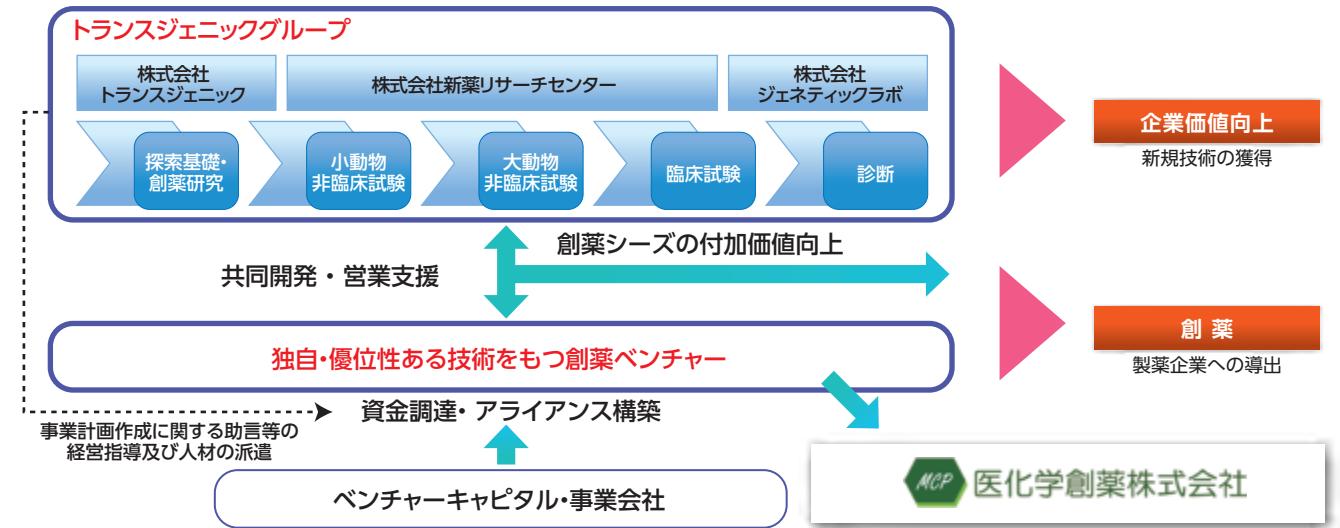
●2016年3月期 連結業績予想

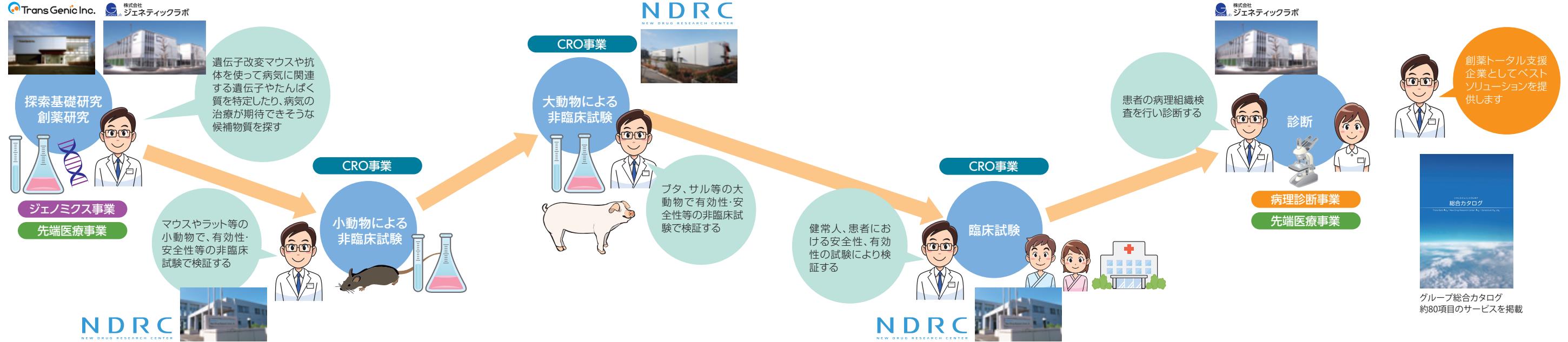
単位:千円	2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (予想)	増減
売上高	1,958,554	2,150,000	191,446
ジェノミクス事業	414,699	424,000	9,301
CRO事業	799,183	880,000	80,817
先端医療事業	369,163	446,000	76,837
病理診断事業	396,779	400,000	3,221
調整	▲21,272	—	21,272
営業費用	1,934,861	2,110,000	175,139
営業利益	23,693	40,000	16,307
経常利益	9,396	35,000	25,604
当期純利益	17,824	18,000	176

Q5 最後に株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A5 これまで重要な経営課題として掲げてきました黒字化については、過去5年間実施してきた事業規模の拡大及び事業運営の効率化により前期にクリアすることができました。今後は、当社グループが有するシーズの収益化推進が課題と考えております。これらの進捗及び成果については、今後、適時に株主の皆様にお伝えする所存です。また、私は従前から述べておりますとおり、特異性・優位性ある技術を有する各事業セグメントで構成された企業グループの構築こそが、グループの成長性・永続性を担保するとともに、企業価値の最大化を導くものと考えております。このため、当社は、今後も積極果敢な攻めの経営を継続する所存です。
株主の皆様におかれましては、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

当社の有用なトータル創薬支援ツールと医化学創薬株式会社が有する糖鎖解析・合成技術を融合させ、新たな事業ステージに展開





ジェノミクス事業

当中間期概要

- ▶ 期初の繰越残高不足の影響により上期は減収減益なるも下期に挽回予想
- ▶ 積極的な新規技術、モデルマウスラインナップの拡充により収益拡大を図る

ジェノミクス事業においては、コンベンショナルノックアウトマウス、コンディショナルノックアウトマウス、ノックインマウス、トランスジェニックマウスなどの遺伝子改変マウスの作製受託のバイオニアとして市場を牽引し、実績と信頼を蓄積し、最新技術導入により、作製期間の短縮、高い成功率を実現しています。さらに、新しい研究ツールとして、各種病態可視化マウスなどの有用なモデルマウスの提供を行っています。また、CRO事業との連携により、GLP施設での遺伝子改変マウスを用いた非臨床試験受託も可能であり、当社独自のサービスとして優位性を図っています。研究開発の一環として、遺伝子改変マウス作製技術を基盤技術とし、組織・臓器レベルでのヒト化マウスの研究開発に取り組んでいます。

また、GANP[®]マウス技術を基盤とした高親和性・高特異性モノクローナル抗体作製をはじめとするタンパク関連受託、試薬販売等のサービスを提供しています。さらに、外部研究機関と共同で各種がんマーカー、メタボリックシンドロームなどの診断薬シーズの研究開発にも取り組んでいます。

ジェノミクス事業は、創薬プロセスにおける、標的分子探索および標的分子の同定の支援を行っています。

売上高 (単位:千円)

期間	売上高
2015年3月期中間	179,291
2016年3月期中間	148,010

営業利益 (単位:千円)

期間	営業利益
2015年3月期中間	10,128
2016年3月期中間	887

CRO事業

当中間期概要

- ▶ 受注好調による大幅増収 (受注残高も加味すると前年同期比2億円強増加)
- ▶ 増収に伴い営業損益も大幅改善

CRO事業においては、GLP及びGCP遵守の受託研究機関として、小動物、遺伝子改変マウスを用いて幅広い薬効薬理試験、安全性薬理試験、薬物動態試験などの非臨床試験受託を行うとともに、霊長類を用いた非臨床試験受託も行い、幅広く顧客ニーズに対応しています。

薬効薬理試験においては、各種動物を用いて病態モデルを作製し、医薬品、ジェネリック医薬品の生物学的同等性試験、医療機器、特定保健用食品の評価等の評価を実施しています。霊長類を用いた安全性薬理試験、各種動物を用いた薬物動態試験など、長年の実績に裏打ちされた高品質な多種多様な非臨床試験受託を取り揃え、高いコンサルティング力により、顧客へベストソリューションを提供することで評価されています。

CRO事業は、創薬プロセスにおける、リード化合物の探索と最適化、非臨床試験、臨床試験の支援を行っています。

売上高 (単位:千円)

期間	売上高
2015年3月期中間	200,488
2016年3月期中間	268,104

営業利益 (単位:千円)

期間	営業利益
2015年3月期中間	△52,529
2016年3月期中間	△25,764

先端医療事業

当中間期概要

- ▶ 個人向け遺伝子解析サービスの不振により減収減益
- ▶ 更なる事業運営効率化、新規解析受託サービス拡充により通期予算を確保するとともに成長分野である個別化医療に向けた創薬支援サービス受注に注力

先端医療事業においては、遺伝子解析受託サービス、遺伝子解析技術と病理診断技術を融合させた分子病理解析、タンパク質定量解析等を提供し、個別化医療に向けた創薬支援を行っています。特に分子病理解析は、製薬企業の需要が高く、技術力に裏打ちされた質の高いサービスとして評価されています。

また、現在重要な研究領域であるiPS細胞や幹細胞、癌幹細胞などの細胞レベルでの遺伝子、タンパク質解析、さらには1分子レベルの解析など、研究者の求める先端的な研究をサポートする基盤技術の確立を進めています。

先端医療事業は、創薬プロセスにおける、標的分子の同定、臨床試験の支援を行っています。

売上高 (単位:千円)

期間	売上高
2015年3月期中間	147,923
2016年3月期中間	137,605

営業利益 (単位:千円)

期間	営業利益
2015年3月期中間	△2,225
2016年3月期中間	△25,145

病理診断事業

当中間期概要

- ▶ 品質管理徹底を背景とした受託検体数増加により増収増益
- ▶ 受託検体数の増加及び新規サービスの開始により更なる収益拡大を図る

病理診断事業においては、年間十数万件の病理細胞診を実施している経験豊かな認定病理医がグローバル基準の認定(GAP)施設で質の高い病理組織診断、乳がんや胃がんのバイオマーカーを用いた解析、組織アレイ作製、特異抗体を用いた免疫染色・FISH法による分子の可視化技術や定量評価など、臨床における病理診断を行っています。将来的に、個別化医療の中心となるがん領域、炎症性疾患領域において豊富な病理診断実績を有し、遺伝子解析との技術融合による試験受託は製薬企業ニーズに応えるもので、個別化医療関連の創薬における優位性を有しています。また、子宮頸がん検出率向上を目的として液状細胞診とHPV核酸検出検査の併用に取り組んでいます。

病理診断事業は、創薬プロセスにおける、臨床試験の支援を行っています。

売上高 (単位:千円)

期間	売上高
2015年3月期中間	195,533
2016年3月期中間	201,660

営業利益 (単位:千円)

期間	営業利益
2015年3月期中間	14,842
2016年3月期中間	19,892

◆研究開発方針

基礎研究支援から、臨床試験支援まで事業を拡大し、収益基盤の確立を目指すという目標はほぼ達成しました。研究開発の次の目標は、拡大した各事業間の連携による既存事業のさらなる強化と新規事業の展開です。有用な新規技術および新規モデルマウスの開発および導入、そのモデルのCROへの展開、新規技術を用いた事業展開、診断薬シーズ探索の拡充のため、熊本大学、群馬大学、東京大学、産業技術総合研究所等との共同研究を展開し、将来的な収益化につながるプロジェクトに経営資源を投入します。

◆研究開発トピックス

4月	新規モデルマウス3系統販売開始
	新規胆管がんマーカーに関する特許が日本にて成立
	ゲノム編集技術(CRISPR/Cas9)に非独占ライセンス契約締結
5月	バイオファーマジャパン2015にブース出展
	医化学創薬株式会社との抗体医薬シーズに関する共同研究契約締結
6月	第62回日本実験動物学会総会にてランチョンセミナー開催
	「臓器ヒト化マウス」に関する国際特許を出願
9月	TRECKシステム受託、製品販売開始
	第23回日本乳癌学会学術総会出展
10月	早期癌マーカーとしてのジアセチルスペルミンに関する特許が米国で成立
	タンパク質高発現系技術に関する特許が日本にて成立
11月	アトピー性皮膚炎モデルマウスに関する独占ライセンス契約締結
	認知症モデルマウスに関する共同研究契約締結
	第29回国際哺乳類ゲノム会議にブース出展



◆研究開発パイプラインの進捗状況

当社は、3つの研究開発パイプラインを進めてきています。

1. 遺伝子改変マウスの作製技術

可変型遺伝子トラップ法を契機として、その後はES細胞を用いた相同組換え技術、遺伝子導入マウス作製技術の効率化を達成してきました。最近では、ROSA26座位での組換え技術、そしてCRISPR/Cas9法も実用化しています。新規技術の開発に積極的に取り組んでいます。

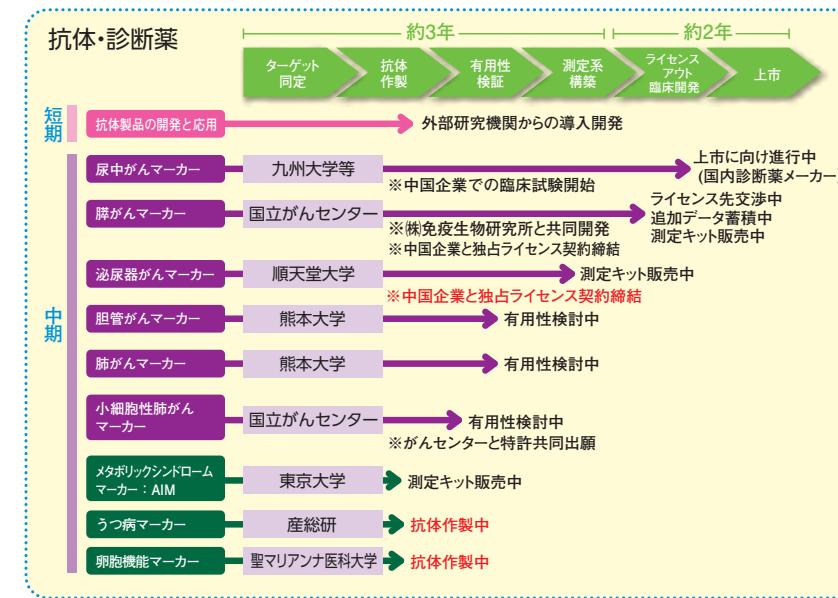
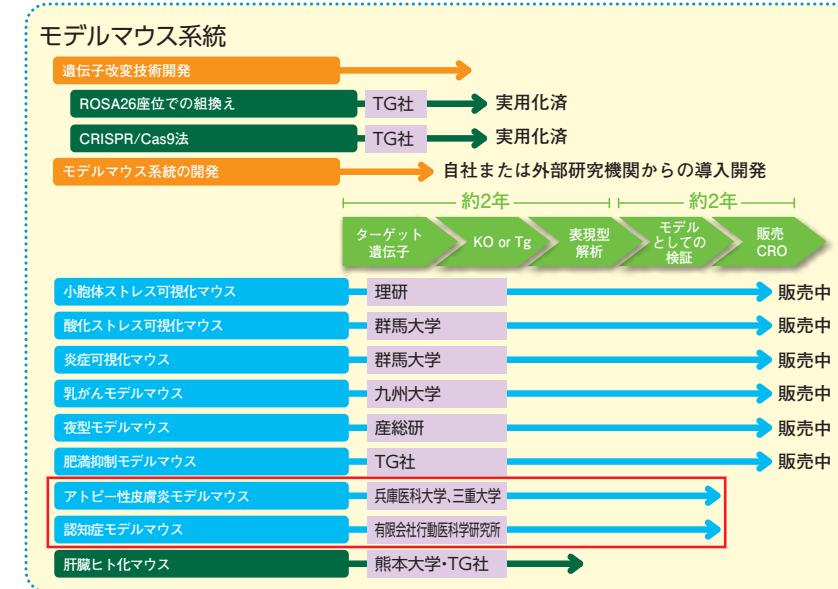
2. モデルマウス系統の開発

大学等の研究機関で作製された、あるいは共同研究等により作製されたモデルマウスを積極的に導入しています。その結果、これまでに、病態可視化マウス、がん等の疾患モデルマウスの販売を開始しています。また、モデルマウスの販売にとどまることなく、将来のCRO事業への展開を見据えたモデルマウスにも重点を置き、特に肝臓ヒト化マウスの開発も行なっております。

3. 抗体製品の開発と応用

GANP®マウス技術を用いて作製した抗体や外部研究機関から導入した様々なシーズをバイオマーカーとして診断薬へ展開するよう研究開発を進めております。バイオマーカー開発パイプラインの充実を図ることで、抗体事業のブランド力を高めて参ります。

◆開発パイプライン状況



〈知的財産戦略の方針〉

当社は、探索研究をしている製薬企業や疾病解明に取り組む研究者へ、有益な研究ツール、知的財産を提供することにより、創薬、病態の解明に貢献したいと考えております。

また、当社は、大学・研究機関等との共同研究を積極的に行い、当事業とシナジー効果が発揮でき得る技術を、研究開発の早期段階において導入することに努めております。研究開発の早期段階での技術導入により、その技術が公開される前に確実な知的財産権を確保するとともに、豊富な実験データに裏付けられた強い特許、将来のマーケティングを見据えた特許網を構築すべく、研究開発、事業戦略と融合させた特許戦略を展開しております。さらに、導入した技術を付加価値の高い技術や知的財産に育て、これらの技術から生まれた独自性の強い製品・サービスを提供するとともに、知的財産、技術情報のライセンスビジネスを展開しております。知的財産のライセンスについては、製薬メーカーなどの開発・事業のステージにあわせたマイルストーンを設定することにより、戦略的な知的財産の活用にも努めております。

〈特許・ライセンスの事業への貢献〉

当社特許の事業への貢献度は高く、当社は保有特許の極めて高い実施率を保っております。また、積極的なライセンスイン、ライセンスアウトを通じて、直接的な収入の増加のみならず、事業の優位性を図り、将来を見据えた中長期的な知的財産戦略を実行しております。

〈リスク対応情報〉

2015年9月末時点において、当社に対する特許訴訟やクレームはありません。当社は、自社技術が他社の特許侵害に当たらぬよう、リスクマネジメントに努めております。

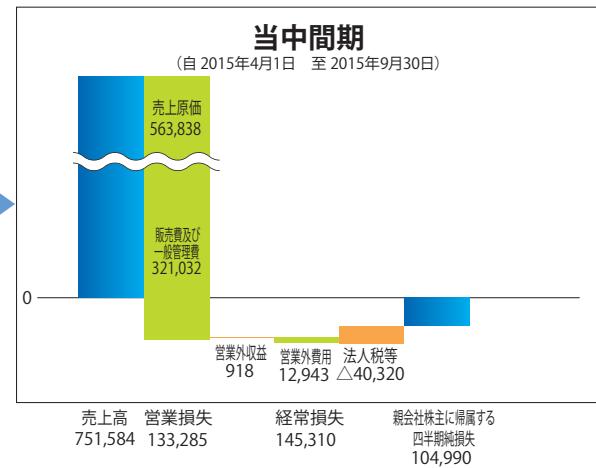
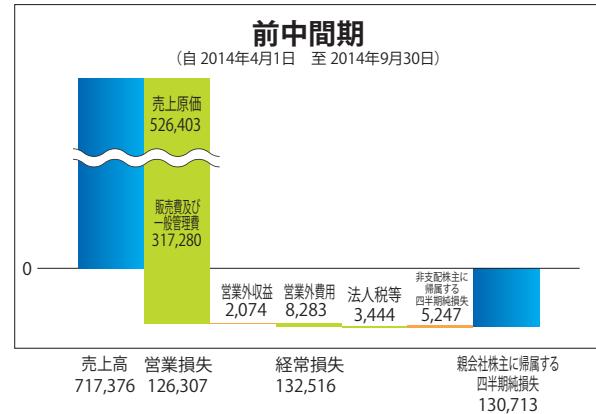
◆主な特許成立マップ

トランスジェニックの特許群は、トラップ技術関連、GANP®マウス技術関連、腫瘍マーカーなどが事業の根幹となっています。これらの知的財産をもとに、国内外の複数の企業とライセンス契約を積極的に進めてまいります。



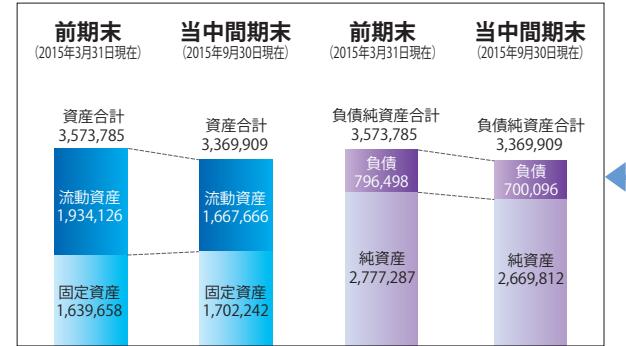
- トラップ法関連特許 日本、米国、欧州、豪州、中国、香港
- 尿中がんマーカー関連特許 日本、米国
- 腫がんマーカー特許 日本、米国
- GANP®タンパク質特許 日本、米国、カナダ
- GANP®マウス関連特許 日本、米国、欧州、豪州、中国、韓国、香港
- 胆管がんマーカー特許 日本
- タンパク質高発現系技術特許 日本

損益計算書より (単位:千円)

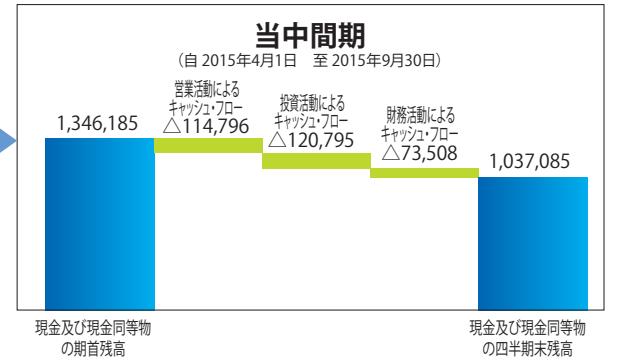


Point 1
当中間期における売上高は751,584千円(前年同期比4.8%増)、営業損失133,285千円(前年同期126,307千円)、経常損失は145,310千円(同132,516千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は104,990千円(同130,713千円)となりました。

貸借対照表より (単位:千円)



キャッシュ・フロー計算書より (単位:千円)



Point 2
当中間期末における流動資産は1,667,666千円となり、前期末比266,460千円減少いたしました。これは主に現金及び預金ならびに有価証券、受取手形及び売掛金がそれぞれ309,100千円、116,598千円減少した一方、仕掛品、その他流動資産がそれぞれ99,043千円、58,873千円増加したことによるものです。固定資産は1,702,242千円となり、前期末比62,583千円増加しました。

Point 3
営業活動によるキャッシュ・フローは△114,796千円(前年同期64,165千円)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは△120,795千円(同△12,622千円)となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは△73,508千円(同△77,010千円)となりました。以上の結果、当中間期末における現金及び現金同等物は、前期末比309,100千円減少し、1,037,085千円(前年同期間末1,358,725千円)となりました。

会社概要 2015年9月30日現在

会社名 株式会社トランスジェニック

設立 1998年4月

資本金 2,552百万円

従業員数 30名(単体)

事業所

本社 福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号

神戸研究所 兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番地14

東京オフィス 東京都港区虎ノ門二丁目7番5号

株式の状況 2015年9月30日現在

発行可能株式総数 43,630,100株

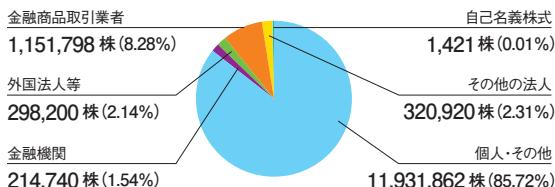
発行済株式の総数 13,918,941株

株主数 13,403名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社SBI証券	468,400	3.36
松井証券株式会社	245,400	1.76
日本証券金融株式会社	212,700	1.52
株式会社ムトウ	160,200	1.15
原田 育生	111,700	0.80
上永 智臣	108,700	0.78
UBS AG London Asia Equities	90,400	0.64
佐賀 芳行	80,000	0.57
中村 英幸	72,200	0.51
マネックス証券株式会社	68,200	0.48

所有者別株主分布状況



役員

代表取締役社長 福永 健司 常勤監査役 鳥巢 宣明

取締役 山村 研一 監査役 遠藤 了

取締役 北島 俊一 監査役 佐藤 貴夫

取締役 山本 健一

取締役 坂本 珠美

取締役 船橋 泰

取締役 清藤 勉

株主メモ

証券コード 2342

上場市場 東京証券取引所 マザーズ

上場年月日 2002年12月10日

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を
することができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。

ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<http://www.transgenic.co.jp/>



当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております。

ir@transgenic.co.jp